

小學校起ル、
外人ト婚嫁ヲ許
ス

○紀元二五三四年

明治七年

臺灣ヲ征討ス、
江藤新平佐賀ニ
亂ス、

賊、岩倉具視ヲ
傷ク、

郵便爲替法實施
ス

○紀元二五三五年

明治八年

出版條例出ツ、
元老院、大審院

りませんか。その頃は我國內が平穩でなく、
ことに軍備も整つて居りませんから、仕方
なく、明治八年五月、全權公使榎本武揚を
して、露西亞國と議して、北海道よりも大
きな樺太を露西亞へやって、小さな千島を
とつたのであります。何と残念なことでは
ありませんか。思ふ一念巖をも通すのたと
への如く、それからは、我國の人々は學問
をはげみ、商業を隆んにして、何うにかし
て一旦取られた樺太を取かへさねば、枕を

ヲ置ク、
朝鮮江華事件、
樺太千島交換、
地方官會議起ル

○紀元二五三六年

明治九年

奥羽巡幸、
佩刀禁令出ツ、
熊本敬神黨起ル

朝鮮條約成ル、
前原一誠兵ヲ萩
ニ擧ク、

墨西哥革命

○紀元二五三七年

明治十年

減租ノ勅下ル、

高くして眠ることが出来ぬと、勉強いたし
ましたので、今日の如く盛大の國となり。
明治三十七八年、露西亞征伐の結果、樺太
の半島を我國へ取りかへすことゝなりました。

鹿兒島の亂

征韓の議論が破裂して、佐賀にも、萩にも
騒亂が起りました。時の陸軍大將西郷隆盛
は自己の議論が通らないので、職を罷めて

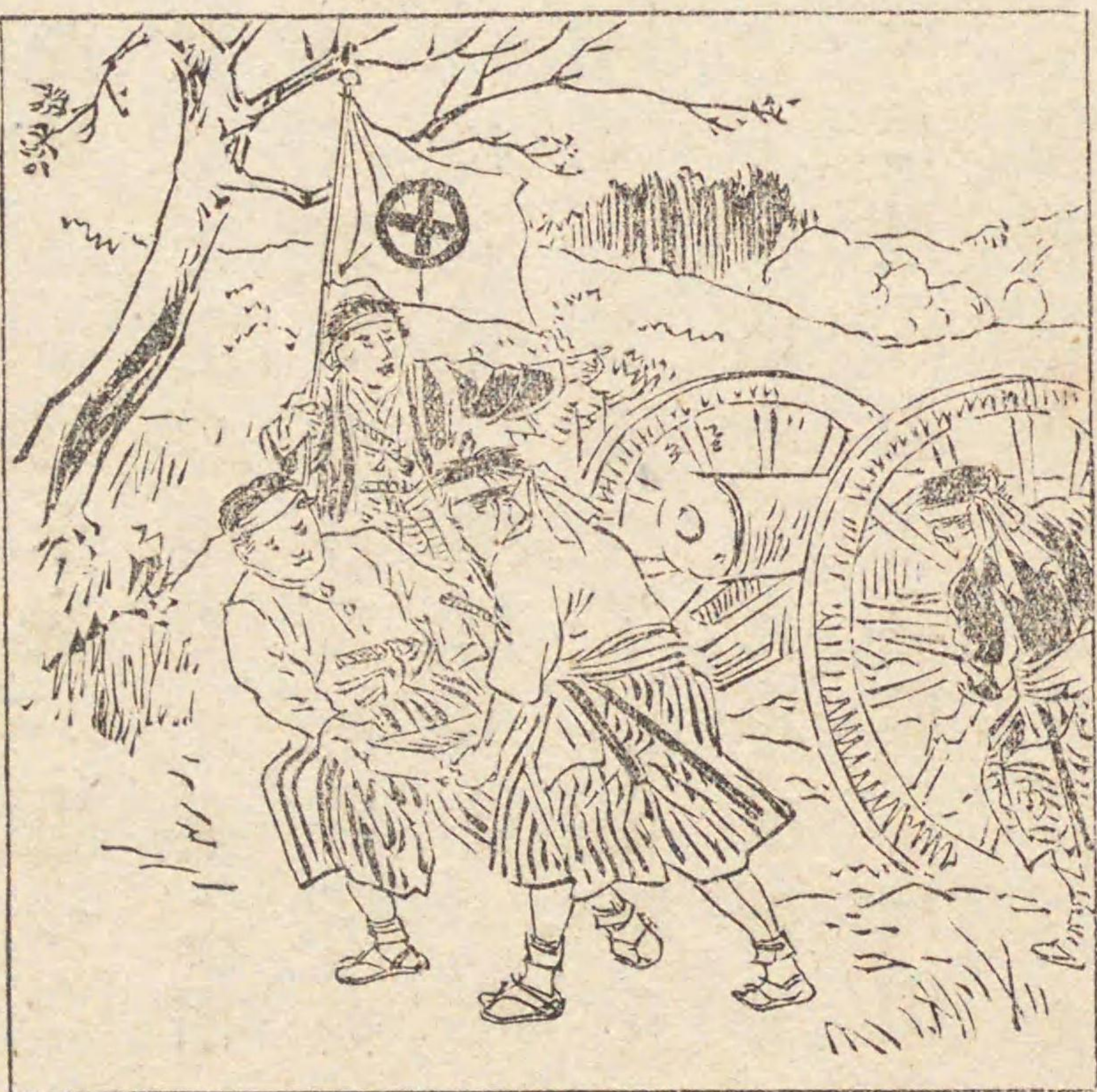
西郷隆盛反ク、
内國勸業博覽會
ヲ開ク、
勳章制定、
木戸孝允薨ス、
露土交戦

○紀元二五三八年
明治十一年
賊、大久保利通
ヲ殺ス、
士族ノ功臣ヲ華
族トス、
郡區町村編制法
ヲ布ク、
府縣會開設
畫師菊地容齋歿
ス、

國に歸り、私學校を建て、生徒を養成する
こととなりました。時に海軍の制が立ち、
鹿兒島に提督府を置き、舊藩主島津公の創
立したる諸器械製造所集成館を機械所とい
たし。陸軍もまた彈藥を製らへるところを
設けました。隆盛の設立した私學校の生徒
は、ことごとく、政府の處置に不平を鳴ら
して居りましたが、竟に政府は刺客を西郷
先生に向けたといふ口實を設けて、いよいよ
兵を擧げるその場になつて西郷に告げま

○紀元二五三九年
明治十二年
琉球藩ヲ廢シ沖
繩縣ヲ置ク、
勤儉ノ勅下ル、
米國條約改正ヲ
承諾ス、
梟刑ヲ廢ス、
智利、ボリヱキ
ア、ペルト交
戦

したから、西郷は止むなく出軍したのであ
ります。朝廷にては、直ちに隆盛等以下の官
爵を奪ひ、有栖川宮
熾仁親王殿下を征
討總督とし、陸軍
中將山縣有朋、海
軍中將川村純義を
參軍として之れを討つこととなりました。



起ル、
刑法治罪法頒布
京都ニ幸ス

○紀元二五四一年
明治十四年

皇城營始、東北、
北海道巡幸、
憲兵ヲ置ク、
國會開期ノ勅下
ル、

第二回勸業博覽
會ヲ開ク、
水星太陽ヲ經過
ス、
虛無黨露帝ヲ殺
ス、

○紀元二五四二年

明治十五年
朝鮮人我公使館
ヲ襲フ、問罪ノ
使出ツ、
朝鮮我邦ニ五十
万弗ヲ容レテ謝
ス、源綱紀速記
術ヲ始ム、
開拓使ヲ廢シ縣
ヲ置ク、
電氣燈始ル

○紀元二五四三年
明治十六年

薩州の軍は熊本城を攻めました。朝飯前に陥そうと思つた。此城は、谷干城が籠つて、必死となつて防ぎ戦ひましたので、案に相違し、その中、官軍は道を分けて、各所から進撃するとなつたので、薩州軍は「勝てば官軍負ければ賊よ」と謠つて、砲烟をくぐり、太刀を抜いて斬込み、官軍を悩ました。原坂の戦争で、老たる樹はをひ繁つて、晝も暗い山でありましたが、此の戦ひの爲めに荒されて、禿山となつたといふことであり、薩州軍は、終に敗れて延岡に退きました。此の時まで残り留まる數千の兵は、皆西郷隆盛の爲めに死なうといひました。西郷はこれを散じ去らせて、桐野利秋をはじめ、とても遁れ難き者數百人を一テとして、可愛岳に打つて出で、烈風の如くに圍みを突き破つて、鹿兒島へと亂れ入り、城山の要害に據つて雲霞の如く攻め來る官軍を防ぎましたが、如何にせん、既に

法院ヲ開ク、
日本銀行立ツ、
水産會ヲ開ク

○紀元二五四四年
明治十七年

兌換銀行券發
行、海底電線ヲ

朝鮮ニ布ク、
朝鮮人我公使館

ヲ燒ク、
五爵ヲ設ク、
清佛交戰、

萬國子午線會議

○紀元二五四五年
明治十八年

郵船會社起ル、

彈丸も食糧も盡きたので、死物狂ひに戦つて、西郷隆盛、桐野利秋をはじめ、薩摩の健兒は、城山の露と消え、茲にまつたく鎮定したのであります。これは、明治十年のこと。

朝鮮の内亂

明治十五年、我が全權公使花房義質は、朝鮮に在りまして、朝鮮政府に向つて兵制の改革を勧めました。同政府は、これを容れ、

太政官ヲ廢シ、
内閣ヲ置キ、諸
省卿ヲ大臣トス
遞信省ヲ置ク、
天津條約成ル、

○紀元二五四六年
明治十九年

北海道三縣ヲ廢
シ道廳ヲ置ク、
ノルマントン號

事件アリ、
大學院ヲ置ク、

虎列刺病大流
行、澳佛交戰、

北獨逸聯合成ル
○紀元二五四七年
明治二十年

我國の士官を聘いで、兵士を訓練することに決しましたが、同國の守舊黨といふ一派は、これを嫉み、なにくに亂を作して王宮に亂入し、我公使館を襲ひました。これは朝鮮王の父君、大院宮の煽動したのであります。公使花房義質は、漸く仁川に免れ、英國の船に乗って長崎へと着しました。我が朝廷にては、これは容易ならぬこと、時の外務卿井上馨を下の關へと赴かせ、陸軍少將高島鞞之助、海軍少將仁禮景範を以

保安條例出ツ、
海防費献金ノ勅
下ル、
井上馨ノ條約案
世論ヲ招ク、
皇城成ル、
皇太子冊立ス、
万國公法會議ヲ
龍動ニ開ク

○紀元二五四八年
明治二十一年
樞密院ヲ置ク、
市町村制定ル、
博士號ヲ設ク、
高島炭坑事件起
ル、磐梯山噴火
死傷算ナシ

て花房公使を護衛して、往つて朝鮮へ渡つて、その罪を問ひました。朝鮮政府は、その賊徒の巨魁を罰し、規約六條、修好續約二條を定め、償金五十万圓と撫恤金五万圓を我國に出して罪を謝びましたので、我政府は償金の内四十万圓を朝鮮政府へ還し與へました。

然るに、それから二年を経て、明治十七年に、又々朝鮮に内亂が起りました、同國には獨立黨と事大黨との二派がありました、

○紀元二五四九年
明治二十二年
憲法發布、
賊、森有禮ヲ殺
ス、
朝鮮防毅事件アリ、
東海道鐵道全通
巴里万国博覽會

獨立黨とは朝鮮の國を進め改め、獨立を主張して、専ら我國に倚らうとするので、又事大黨とは、昔時の習慣を守り、清國を頼まうとするので、此の二つの黨派は、互ひに軋轢て居るうち、獨立黨の首領、金玉均、朴泳孝など、事大黨の首領、閔泳翊を殺して、朝政を革めやうと謀つたので、非常に騒がしくなりました。國王は我公使館に援兵を乞うたので、代理公使竹添進一郎は、兵を率ゐて王宮に至り、清兵と衝突し、仁川に遁

金鷄勳章勅定

○紀元二五五一年

明治二十四年

露國皇太子大津

ノ變、

濃尾大地震、

地租徵收期改正

三條實美薨ス、

露、西比利亞鐵

道起工

○紀元二五五二年

明治二十五年

小包郵便法實

施、豫戒令發布、

東京神田大火、

兒島大審院長弄

る、こと、なり、我公使館は焼かれました。我國では、井上馨を大使として、朝鮮政府に向つて、謝を云はしめ、償金を拂はしめました。其翌年、參議伊藤博文、西郷從道を清國に遣はして、其大臣李鴻章と、天津にて相談をし、兩國ともに朝鮮に兵を置くことを撤め、若し兵を出すときは、之れを知らずることを約しました、これを天津條約といふのであります。

花事件起ル

○紀元二五五三年

明治二十六年

郡司成忠千島移

住、吾妻山噴火、

福島安正西比利

亞遠征歸朝、

布哇平和的革命

起ル、

南米革命

○紀元二五五四年

明治二十七年

大婚式、

東京大地震、

洪鐘宇上海ニ於

テ金玉均ヲ殺ス

官制の改革

明治十七年、はじめて公、侯、伯、子、男の五爵を制して、これを華族に授けました。これまで華族といふものは、舊公卿および舊大名のみでありましたが、此時あらたに維新の際、功のあった人々および朝廷へ忠義を盡した人々の子孫、または、門地の高き神官僧侶などを擧げて華族としたのであります。明治十八年、大に官の制を改め、悉くこれま

日清交戦、大本營ヲ廣島ニ進ム英、米、伊改訂條約成ル、我海軍清國軍艦ヲ豊島沖ニ破ル我軍、清兵ヲ成歡ニ破リ牙山ヲ拔ク、開戦ノ大詔下ル、山縣有朋ヲシテ第一軍ヲ率井テ朝鮮ニ向ハシム野津道貫等平壤ヲ合撃シテ之ヲ陥ル、我軍艦、清國艦隊ヲ黄海

ニ破リ四艦ヲ撃沈ス臨時帝國議會ヲ廣島ニ開會ス第一軍滿洲ニ入ル、大山巖第二軍ヲ率キテ清國金州ヲ衝ク、第二軍旅順半島ヲ占領ス、第一軍大孤山、岫巖、拆木城、ヲ取ル、野津道貫第一軍司令官トナル、有栖川熾仁親王薨ズ小松彰仁親王參

ての官省を廢め、新たに宮内省、外務省、内務省、大藏省、陸軍省、海軍省、司法省、文部省、農商務省、逓信省の十省を置き、各省とも、その主る役を大臣と改め、更に内閣總理大臣を置きて各大臣を統べしめ、内閣を組織せしめ、尋いで法律、勅令、閣令、省令、府縣令の制を立て、後ち明治二十一年樞密院を置きて、國家の元老を以て之れに任じ、最高の顧問官となし、又、市町村の制を定めて、地方自治の基を開くこ

と、なりました。

憲法發布

明治二十二年二月十一日、即ち、神武天皇即位紀元二千五百四十九年を以て、今上天皇宮城に於かせられ、親王、大臣、地方長官、裁判所長をはじめ、東京に在る敕任官、奏任官、および、華族、府會議長、縣會議長、外國公使等を招ぎ、親から皇祖皇靈に告げ祭り、大日本帝國憲法を發布し玉ふ、憲法は

謀總長トナル

○紀元二五五五年

明治二十八年

第二軍威海衛ヲ

占領ス、

我艦清艦ヲ進撃

ス、

北洋水師提督丁

汝昌降ヲ乞フ、

清國北洋艦隊殲

滅、第一軍牛莊

ヲ取り第二軍營

口ヲ取り兩軍相

合シテ田庄臺ヲ

燒キ悉ク遼東半

島ヲ占領ス、

征清大總督府ヲ

凡そ七章七十六條より成り、先づ我が大日

本帝國は、萬世一

系の天皇、これを

統御し玉ひ。次に

臣民翼賛の道を擴

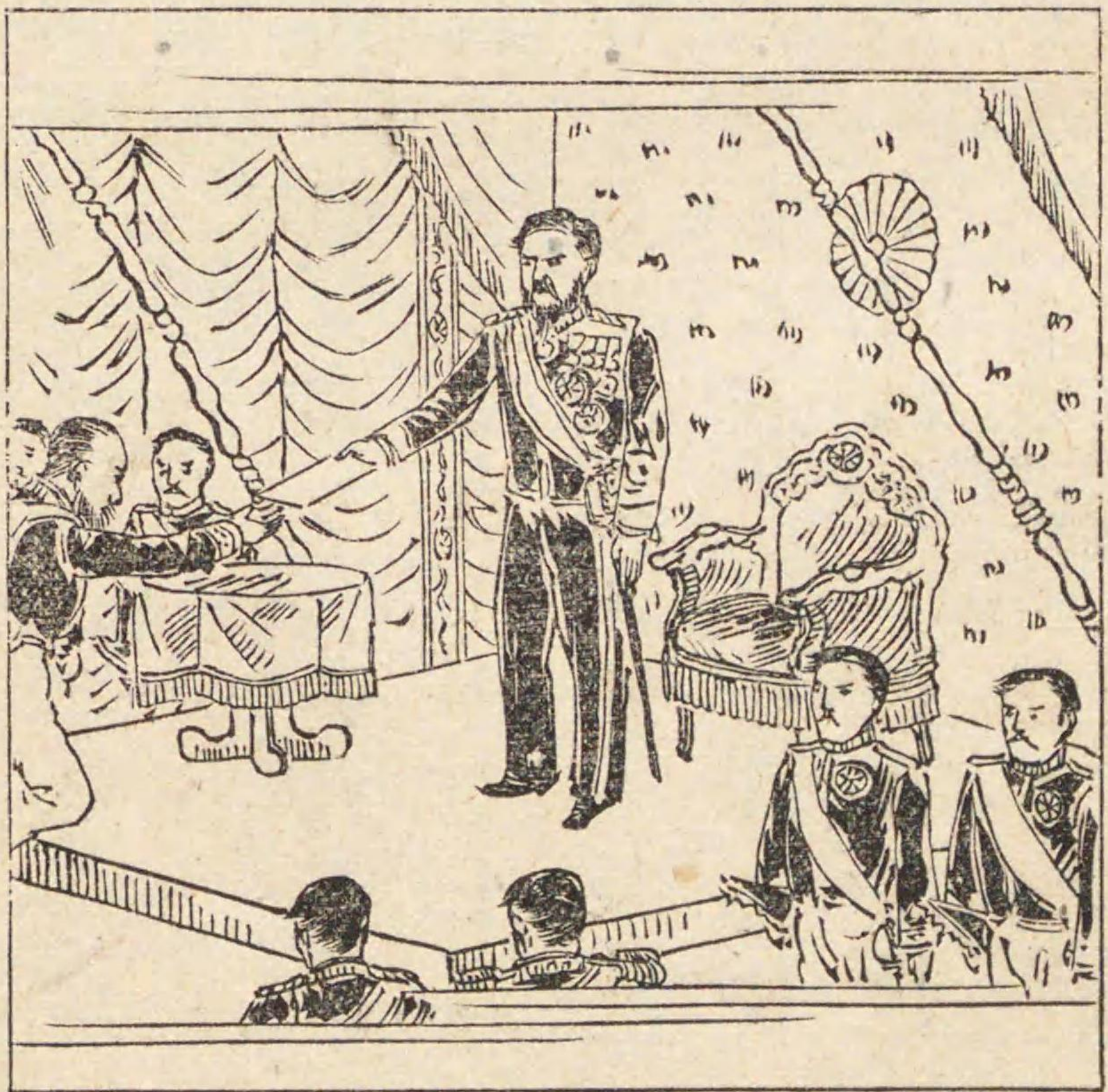
め、帝國議會を開

き設けて政に參す

るの權を與へ、以

て益々國の基を鞏

くし、民の福利を進むべきことを示してあ



金州ニ置ク、志比島義輝澎湖島ヲ略有ス、清國李鴻章ヲ全權大臣トシ來ツテ和ヲ請ハシム兇人、李鴻章ヲ傷ク、大本營ヲ西京ニ移ス、講和條約成リ、之ヲ公布ス、露、獨、佛三國ノ忠言ヲ納レテ遼東半島ヲ還付ス征清軍ヲ召還ス大元帥東京ニ凱旋ス、凱旋軍歸朝、新領土臺灣ニ總督府ヲ置ク、

ります、又別に、皇室典範を定められまし

た。これは、凡そ十二章六十二條より成り、

皇位の繼承、皇室の御料、皇族の待遇等を

規定されたのであります。此外、議院法、

衆議院議員選舉法、會計法、貴族院令等を

發布せられました。

此日 天皇陛下には、使を遣はして、岩倉

具視、島津久光、大久保利通等、維新の際、

功勞のあつた方々の墓に告げ。又國事犯を

赦し、西郷隆盛、藤田彪等に贈位の御沙汰

臺灣ノ土匪亂ヲ作ス、近衛師團之ヲ征ス、北白川能久親王軍中ニ薨ズ、千島艦事件、虎列刺病流行、西班牙政馬島ノ判民ヲ征ス

○紀元二五五六年
明治二十九年
廣島大本營解散
柘植務省ヲ置ク
三陸大海嘯、
師團増設、
海軍擴張、
軍事公債發行、
佛、蘭改訂條約
成ル、
露帝戴冠式、

あり。八十歳以上の男女に養老金を賜ふ。抑も憲法は我帝國を保維すべき万世滅せざる大典であります。大憲此に定まり、臣民の権利財産は確に定まり、立憲政體の實此に擧つたので、天下万民は擧つて万歳を稱へ、聖徳の隆昌を祝しました。

立太子

明治二十二年十一月三日、即ち天長節を以て、皇子明宮嘉仁親王を立て、皇太子とし、

古典に依つて壺切の劍を傳へ給ふ。皇太子殿下は、明治十二年八月三十一日の御誕生にて、實に今上陛下第三の皇子であらせられます。

帝國議會

明治二十三年十一月、天皇親ら貴族院に臨み、帝國議會開會式を行はせ給ふ。これを我國に於ける第一期の帝國議會とします。貴族院議員二百五十二人、衆議院議員三百

比律賓叛亂
○紀元二五五七年
明治三十年
英照皇太后崩ス
減刑大赦令出ツ
金貨本位實施、
布哇移住民拒絶
足尾銅山鑛毒事件起ル、
柘植務省廢止、
後藤象二郎薨ス、
陸奥宗光薨ス、
九州ニテ大機動
演習ヲ行フ、
希土交戦、
獨乙膠州ヲ占領ス
○紀元二五五八年
明治三十一年
元帥府ヲ設ク、

大隈重信、板垣退助等政黨内閣ヲ組織シ、次デ瓦解ス、民法商法實施、諸物價騰貴ス、米、西交戰

○紀元二五五九年
明治三十二年
地租増徴、郵便電信料等増加、改訂條約實施、内地雜居、黒死病流行ス
貞宮多喜子内親王薨ス、勝安芳薨ズ、川上操六薨ズ、大木喬任薨ズ、英杜戰爭

○紀元二五六〇年
明治三十三年
清國義和團ノ亂聯合軍組織セラ
太浩ノ攻陥、聯合軍天津ヲ陥レ北京ニ入ル、清國和ヲ求ム、帝室婚嫁令、皇太子立妃、政友會起ル、未成年者喫咽禁止法出ヅ、改正小學校令出ヅ、娼妓自由廢業、品川彌次郎薨ズ、外山正一薨ズ、黒田清隆薨ズ、

人であります。

朝鮮の變亂

明治二十七年五月、朝鮮國內に東學黨と稱へて、一種の暴徒起リ諸道を靡かして其勢ひ猖獗にして、容易に鎮定する様子もありません。同國の權臣閔泳駿等は清國の使臣袁世凱に依り、清兵の援助を求めました、そこで袁世凱は、本國より兵士を招きて牙山に屯させました。我國にては此報を傳へ

聞き、公使大島圭介をして朝鮮政府に向つて内政の改革を勧め、又我が公使館及び居留人民を護る爲めに第五師團長野津道貫に命つけて、混成旅團を編成して朝鮮國に赴かしむることとなり、陸軍少將大島義昌これが司令官となりました。日清兩國の軍隊前後して朝鮮に入るを見て東學黨は漸々其勢ひを挫ちき、遂に朝鮮兵の爲めに討ち破られて、四方に散亂れました、然るに清國の使袁世凱は、暴徒の潰散したのを名とし

○紀元二五六一年
 明治三十四年
 星亨伊庭想太郎
 ノ爲メニ殺サ
 ル、
 福澤諭吉薨ズ、
 大鳥圭介授爵、
 清國謝罪使來ル
 ベルリ上陸紀念
 碑立ツ、
 師團ヲ増シテ十
 三箇師團トシ軍
 備振張ノ實舉ル
 舞鶴鎮守府開始
 艦隊演習、
 陸軍大演習、
 足尾銅山鑛毒事
 件起ル、
 第五聯隊雪中行
 軍シテ大雪ニ埋
 メラル、

皇孫迪宮裕仁親
 王御生誕
 英國女皇崩ス、
 ○紀元二五六二年
 明治三十五年
 皇孫雍仁親王御
 生誕、
 露佛同盟宣告ス
 西郷従道薨ズ、
 西村茂樹薨ズ、
 正岡子規逝ク、
 李鴻章逝ク、
 中江兆民逝ク、
 ○紀元二五六三年
 明治三十六年
 大谷光尊寂ス、
 四月日露交渉ヲ
 開始ス、
 東郷中將常備艦
 隊司令官ニ任ズ

て、我が軍隊を去らしめやうとしましたが、
 公使大鳥圭介は、彼國の内治未だ改められ
 ざるがゆへに、兵を去ることを諾しません。
 仍つて清國と力を合せて朝鮮の改革を謀り、
 東洋の平和を保たんことを請求しましたか、
 袁世凱は之れに應じません。そこで我公使
 は獨力にて彼の國の内政を改革せしめやう
 と、同國の政府に迫り、獨立の實を擧ぐる
 爲めに、先づ韓清條約を廢め且つ清兵を去
 らしめやうといたしました。彼國の權臣等

は兎角に之れを決めることが出来ません。
 此に於て我公使は國王に謁して此旨を奏上
 んとするを、朝鮮の兵士は之れを途中に迎
 へて砲撃をしました。我軍は討つて、これ
 を逐ひ、其中公使は無事に王宮に入り、國
 王に謁見して、此事を陳べました。國王は
 嘉んで、これを納れ、即ち韓清條約を廢め
 ることを國中へ宣告いたされ、且つ清兵を
 驅逐はんを我れに託しました。然るに清
 國の使袁世凱は、本國に援兵を求めたので、

尾崎紅葉逝ク、

○紀元二五六四年

明治三十七年

二月五日、日露

外交断絶ノ通

牒、

八日、東郷司令

長官露艦三隻ヲ

旅順ニ撃沈ス、

九日、瓜生艦隊

仁川港外ニ露艦

ヲ破リ敵艦自ラ

爆沈ス、

九日、我陸兵仁

川ニ上陸ス、

十日、征露宣戰

ノ大詔下ル、

十一日、敵艦日

本海ニ現ハレ我

商船奈古浦丸ヲ

清廷は兵八千を發して、牙山および義州より我軍を撃たんといたしました。抑もこれを日清戦争の原因とするのであります。

日清戦争

明治二十七年七月二十五日、我が海軍司令部長中將樺山資紀は、軍艦吉野、浪速、秋津洲の三隻を率ゐて仁川に赴かうとして、朝鮮豊島沖に至りました。此時、清艦濟遠廣乙の二隻に遇ひましたから、我艦禮をし

撃沈ス、
十二日、大本營ヲ宮中ニ設ケラル、
十三日、我早鳥朝霧ノ旅順奇襲
十五日、露國水雷母艦沈没、
廿四日、旅順口第一回閉塞ヲ決行ス、
廿七日、日韓議書定發表
三月、旅順口舷々相摩ス程ノ驅逐隊激戰敵艦二隻ヲ撃沈ス、
廿七日、第二回閉塞ヲ決行シ廣瀬海軍中佐戰死ス、

ますれども、清艦は之れに應ぜず、其の近くに及んで突然我艦に向つて彼れより發砲し戦ひを挑みました。是に於て我艦は直ちに應戦し廣乙號を打沈め、濟遠號を走らせました。時に又々清艦操江號および高陞號は、清兵を載せて此所へ來たので、我艦は直ちに之れを撃ち、操江號を降し、高陞號を打沈めたので、清兵千餘人は見るく溺没することゝなりました。これを豊島沖の戦といひ、日清の戦争、此時に始まりま

廿八日、近衛騎兵敵ヲ撃退シテ定州ヲ占領ス、四月
十三日、我海軍旅順口ヲ攻撃シ敵旗艦ヲ轟沈シ提督マカロフ以下七百名戦死、廿六日、金州丸撃沈セラル、五月
一日、九連城ヲ占領ス、三日、第三回旅順口閉塞ヲ決行ス、
六日、我二軍普蘭店ヲ占領ス、同日、第一軍鳳凰城ヲ占領ス、

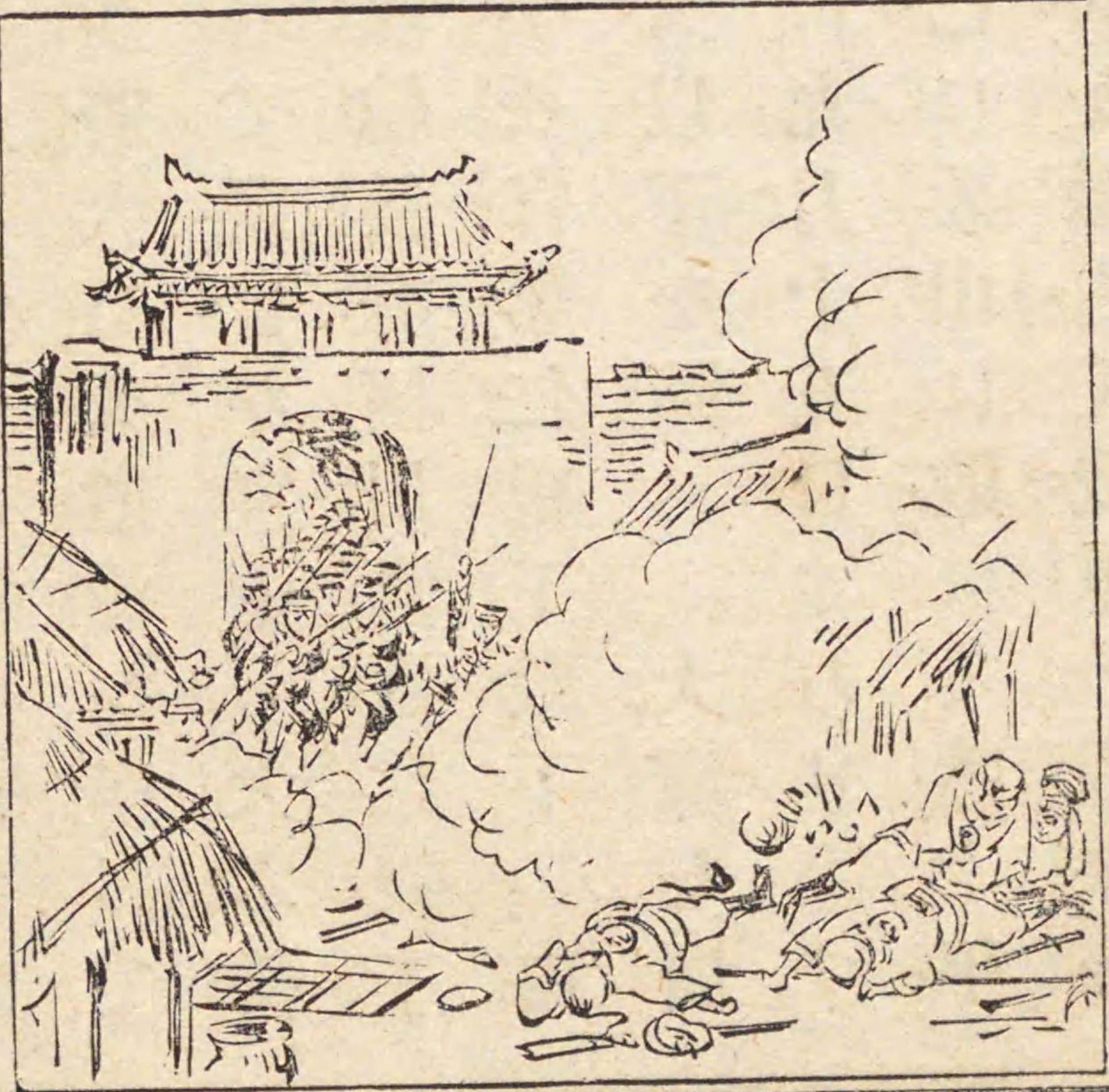
した。
此月二十九日、我混成旅團は、進んで清兵を成歡に討つて、之れを破り、更に進んで牙山に迫る。清軍は戦はずして逃ぐるるので、そこで、我軍は牙山の敵營を抜きて京城に凱旋したのであります。
八月一日、天皇陛下、宣戰の詔勅を下し玉ひ、清國も又、此日を以て開戰を布告したので、彼我兩國の公使は、各本國に引揚げました。詔して、征清大本營を參謀本部に設

十五日、吉野艦春日ト衝突シテ沈没ス、同日、初瀬轟沈、廿六日、第二軍金州城ヲ占領シ更ニ南山ヲ占領ス。
廿七日、南關嶺ヲ占領ス、卅日、第二軍ノ一部青泥窪ヲ占領ス、
六月、第一軍賽馬集ヲ占領ス、八日、大孤山上陸軍岫巖ヲ占領ス、
十日、金州灣ニテ敵ノ驅逐艦一

り、陸軍大將山縣有朋を第一軍司令官とし、陸軍中將桂太郎、少將大島久道等を率ゐて朝鮮に赴かしめ、尋で親征を宣し、大本營を廣島に移し、參謀總長有栖川宮熾仁親王殿下、近衛師團長小松宮彰仁親王殿下、内閣總理大臣伊藤博文以下を隨へ、大燾を廣島に進め玉ふ、時に九月十五日であります。是より先、清軍は已に牙山に敗れて悉く平壤に聚り、更に大兵を發して我軍の進撃を破らんとす。我第一軍は、之を包圍攻撃し、

隻ヲ鹵獲ス、
 十二日、我第一
 軍ノ枝隊懷仁ヲ
 占領ス、
 十五日、常陸丸
 撃沈セラシム、
 十六日
 新湊丸撃沈セラ
 ル、
 十七日、八幡丸
 安靜丸撃沈セラ
 ル、
 廿一日、第二軍
 熊岳城ヲ占領ス
 廿三日、敵艦大
 舉旅順口外ニ突
 出ス我艦隊敵艦
 一隻ヲ撃沈ス、
 廿四日、旅順攻
 圍軍釵山歪頭山
 小平島ヲ占領ス

遂に此所を占領しました。又海軍は、海洋
 島に向ひし時、偶
 偶清艦に會し、茲
 にて激戦の後、敵
 艦四隻を撃沈しま
 した、これを黄海
 の戦といひます。
 大元帥陛下、更に
 詔して第二軍を編
 成し、陸軍大臣大山巖を以て指令官とし、

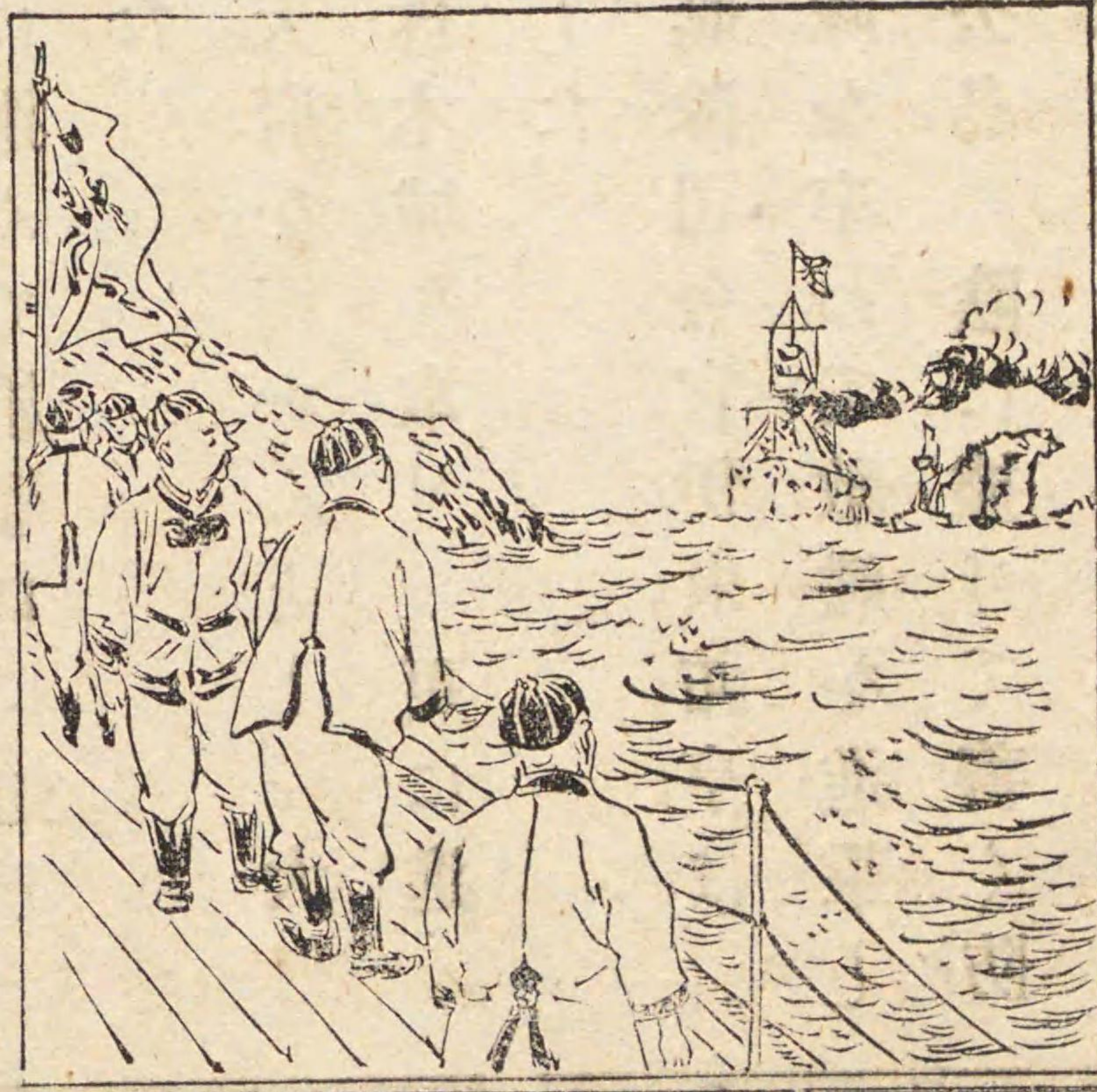


廿七日、大孤山
 分水嶺ヲ占領ス
 廿九日、第一軍
 北分水嶺ヲ占領
 七月
 一日、第一軍摩
 天嶺ヲ占領ス、
 五日、海門艦沈
 没ス、
 九日、我二軍蓋
 平ヲ占領ス、
 十日、
 大孤山上陸軍秀
 才溝占領、
 十七日、第一軍
 細河附近ヲ占領
 廿五日、第二軍
 大石橋及營口ヲ
 占領ス、
 卅一日、我一軍
 塔灣ヲ占領ス、
 同日、大孤山上

進んで花園河口に上陸し。金州城を陥れ、
 大連灣を取り、更に進んで旅順口に迫り、
 これを占有しました。
 第一軍は進んで奉天府を衝かんとし、大孤
 山、岫巖を略し又柘木城を取り、更に進ん
 で海城を占有しました。
 二十八年一月、我艦隊司令官伊東祐亨は、
 本艦隊及び遊撃艦隊を率ゐて敵艦を進撃し
 ました、清艦、劉公島の陰に據りて善く防
 ぐのて、そこで、水雷艇を放ち、夜に乗じ

陸軍 柵木城占領
 八月 一日、第一軍 楡樹林及様子嶺ヲ占領ス、
 三日、第二軍 牛莊及海城占領、
 十四日、上村艦隊 浦鹽艦隊ヲ蔚山沖ニ遊撃シ、
 リューリック一隻ヲ撃沈シ、他二艦ニ大損害ヲ與ヘ敵兵六百名ヲ救助ス、
 廿一日、千歲對馬ノ二艦敵艦ノ一ウキックヲ樺太ニ撃破ス、
 同日、我軍 椅子山砲臺及白玉山

て彼の旗艦定遠を轟沈し、續て來遠、致遠、濟遠の數艦を碎いた。たので敵艦の勢ひ大に減じ。加ふるに糧食の乏しきを以て、提督丁汝昌、使を以て兵器軍艦を悉く我れに納れて降參を請ひました。我軍は之を許し、



鎮遠以下の十隻は皆

ヲ占領ス、
 廿三日、敵艦セバストボリ一器械水雷ニ罹リ半沈ス、
 廿六日、遼陽攻撃開始、
 廿八日、第二軍 鞍山站等ヲ占領
 卅一日、本谿湖ヲ占領ス、
 九月
 四日、遼陽占領
 九日、玉門子山ヲ占領ス、
 十一日、煙臺ヲ占領ス、
 十三日、我水兵ノ母ト稱セル英國マクレーン女史逝ク、

我有となり、茲に清國北洋艦隊は全滅したのであります。第一軍、第二軍は各要所を占領して、兩軍相合して田庄臺を攻めて之を焼き、此に遼東半島悉く、我占有するところとなりました。頑迷なる清國も、我海陸軍の勇猛なるに驚き、到底敵し難きを悟り、李鴻章を全權大臣として馬關に來り和を請ふに至りました。我政府は伊藤博文、陸奥宗光を全權委員と

十八日、平遠沈没ス、
十九日、磐龍山ヲ占領ス、
廿日、クロバトキン砲臺外四堡壘ヲ占領ス、
十月、
九日右翼軍土門子嶺ヲ占領、
十三日、左翼軍浪子街ヲ占領、
十五日、沙河大會戰一段落ヲ告グ、
廿七日、右翼軍歪頭山ヲ占領、
卅日、旅順攻圍軍松樹山二龍山及ビ東鷄冠山北砲臺ノ外岸及中

砲臺、瘤山等ヲ占領ス、
十一月
卅日、攻圍軍二百三高地ノ突撃ヲ強行シ新銳増援ヲ得テ全ク占領ス、
十二月
三日、孤家屯ヲ占領ス、
十一日、攻圍軍黄金山下ノ無線電信及武庫ヲ砲撃ス、此日敵艦八隻ヲ撃破ス、
十八日、攻圍軍東鷄冠山北砲臺ヲ占領ス、
廿二日、東郷大將ハ敵艦隊全滅

して之れが商議を遂げ講和條約の成立を見るに至りました。時に二十八年四月十七日其大要は、清國は朝鮮の獨立を認め遼東半島及び臺灣、澎湖列島を我國に割讓し、軍費賠償として康平銀二億兩を拂ふことを約しました。

遼東還附

日清講和條約成立したる時、露西亞は佛國獨逸と共に、我國に向つて、東洋平和の爲

め遼東半島を清國に返せと忠告をして、若し之れに従はねば兵力に訴ふると云ふ様子を見せました、實に餘計な世話で、我國は東洋平和の爲めに清國から之れを取つたのに、其れを還せとは、實に無法と云ふより外はありませぬ。
併し、我國は清國と百戰の後で、三國を相手に戦争するものが出来ぬので、恨を呑んで其忠告に従ひ、三國同盟干涉の爲めに、幾万の同胞が血を以て購ひたる遼東半島を清

ヲ報シ艦隊ヲ二分シ新行動ニ就カシム、攻圍軍ハ半島高地、後山羊頭ヲ占領、廿五日、旅順攻圍軍遂ニ大劉家屯ヲ占領ス、

○紀元二五六五年
明治三十八年

一月、攻圍軍且砲臺盤龍山新砲臺及望臺ヲ占領シ、又三羊頭南方高地ヲ占領ス、占領各砲臺ヨリ百一發ノ實彈皇禮砲ヲ放ツ、敵將ステツセル遂

國に還すこと、なりました。

北清事件

明治三十三年四五月のころ、清國に義和團と云ふ賊徒が起つて、清國の官兵もこれにくみし、外國人を誰彼の差別なく打ち拂はふとしました。外國人は皆英國の公使館内にたてこもつたが、清兵の攻撃がますます激しくなつて、其人數は殖えるばかり、こちらには段々減つて行く。そこで各國から速

ニ降伏ヲ申出ツ
二日、彼我全權
委員開城規約ヲ
調印ス、
三日、開城擔保
ノ諸砲臺ヲ受領
皇孫宣仁親王御
生誕、
五日、乃木ステ
ツセル兩將水師
營ニ會見ス、
八日、敵將フオ
ーク、スミルノ
フ、ゴルバトウ
スキー俘虜ニ決
ス、宣誓開放將
校四百四十一從
卒二百二十九ト
報ゼラル、閉塞
隊生存者十六名
我軍ニ收容ス、

に兵を送つて、まづ太沽砲臺を乗取つたが、その時は、我日本兵が第一に先登して、日の丸の旗を砲臺に推し立てたのであります。それから天津を占領して、みちく義和團を打ち破り、やうやく北京へ着いて外國人の生命を救ひました。まもなく義和團も平ぎて、平和條約を結ばれたが、我國を始めとして英、米、獨、佛、露、奧、以、西等の連合軍が一國に攻めこんだのだから、一時は世界の騒であつた。扱義和團の亂を平

十日、旅順ノ受領ヲ了ル大砲數五百四十六門、露キーチンペー
 ルニ少將、ウキ
 ルシン提督俘虜
 トナル、
 十一日、ステツ
 セル旅順ヲ去ル
 十二日、旅順入
 場式、
 十三日、旅順俘
 虜千二百九十六
 名收容、
 十四日、ステツ
 セル長崎ニ來ル
 十七日、ステツ
 セル歸國出發、
 廿九日、黒溝臺
 ヲ占領ス、敵ノ
 死傷一万俘虜五

らげるには、日本兵が一番力があつたとして、
 今に世界の賞賛するところとなりました。

日英同盟

馬關條約で、清國より割讓された遼東半島
 は、露、佛、獨三國が同盟して示威運動を
 した爲め、清國へ還附したのであります。
 然るに彼の國々は、その舌のまだ乾かない
 中に獨逸は遼東半島の膠州灣を占領し、露
 國は旅順口を占領し、佛國も借地を清國に

百人、
 卅一日、副島種
 臣薨ス、
 二月
 廿四日、清河城
 ヲ占領ス、
 三月
 二日沙河全軍活
 動ヲ開始ス、
 三日、新民廳ヲ
 占領ス、
 八日、露軍總退
 却ヲ始ム、
 八日、大山司令
 官ハ進撃ノ際奉
 天城内宿營ヲ禁
 ズ、
 九日、撫順占領
 十日、奉天占領
 十六日、鐵嶺ヲ
 占領ス、

請求しました。はじめ露國は、この三國同
 盟へ英國を引込
 うとしたが、英國
 は之れを刎ねつけ
 て、日本人に代つ
 て威海衛を占領し
 その鈞衡を保ちま
 した。又我國が始
 め各國と假りに結
 んだ條約は、明治の世の腫物のやうに苦痛



十七日、開原ヲ
占領ス、
廿二日、昌圖府
ヲ占領ス、
卅一日、綿花街
ヲ占領ス、
四月
十二日、蒼什ヲ
占領ス、
十四日、英額城
及八家子占領、
十五日、通化ヲ
占領ス、
十六日、小幡篤
次郎逝ク、
五月
四日、八寶屯ヲ
占領ス、
廿六日、西面城
ヲ占領ス、
廿七日、日本海

を感じて居たが、英國は卒先して改正條約
に調印したから、各國との改正談判も思ひ
の外はやく纏つたのだといひます。北京騷
亂の時も、同盟軍中、日本兵は目醒しい働
きをして、そのうへ規律が嚴重であつたか
ら、英人は大に我國に同情を表し。いよいよ
東洋の平和を維持するため、明治三十五
年一月、日英兩國の同盟が成り立つたので
あります。併して三十八年、規則を改めて
益々範圍を擴めました。

大海戰、我海軍
大捷、
廿八日、日本海
大海戰敵將降伏
空前ノ大捷敵ノ
戰艦二隻、海
防艦二隻、驅逐
艦一隻ヲ捕獲シ
二十隻ヲ撃沈ス
敵全艦隊全滅ス
六月
廿一日、鏡城ヲ
占領ス、
七月
七日、片岡北遣
艦隊樺太島コル
サコフヲ砲撃ス
我陸軍ハ直チニ
上陸シテ同市街
ヲ占領ス、
八日、小村全權

日露戰爭

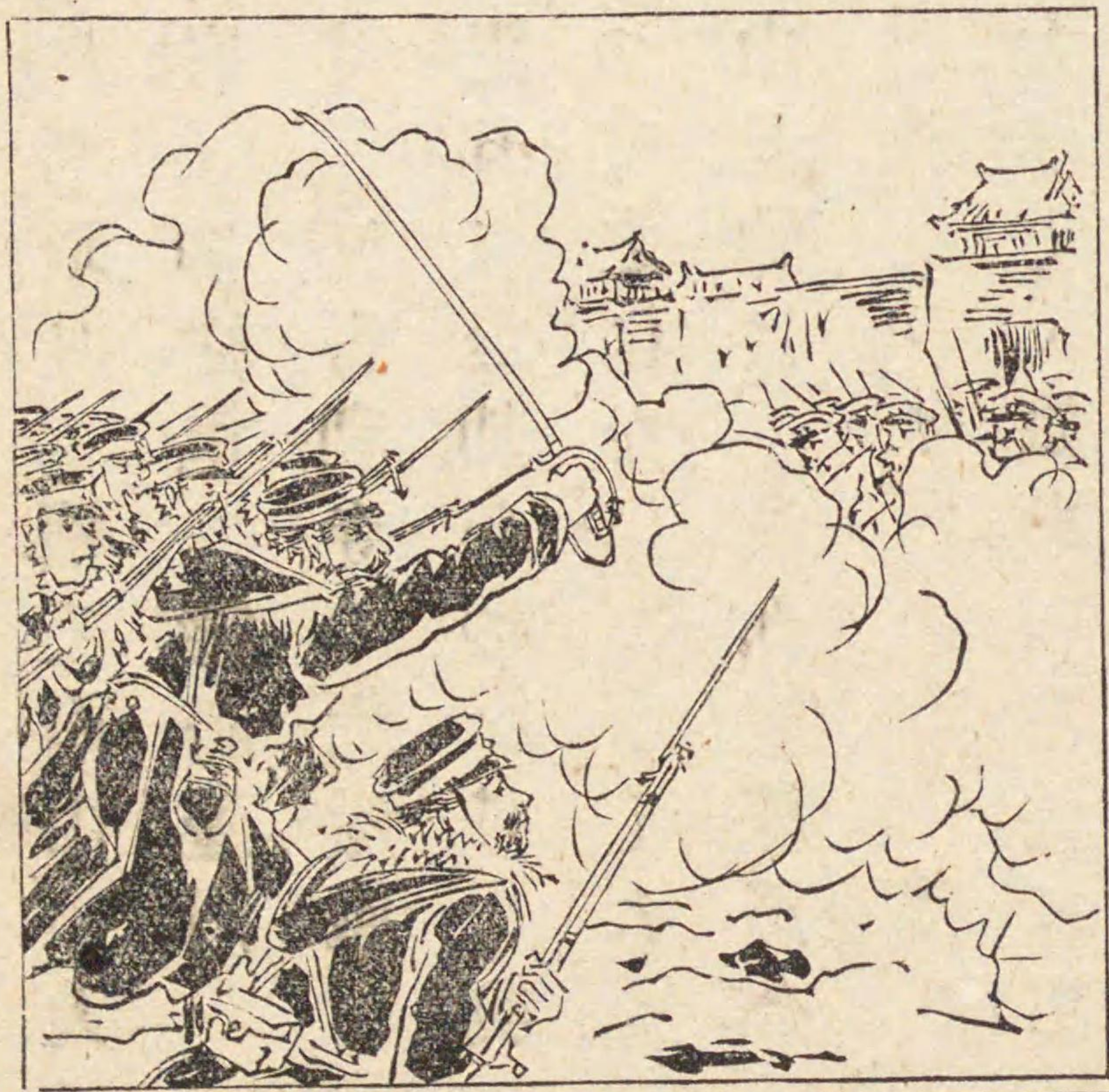
清國義和團を平らげて、各國ともに兵を引
くべきであるのに、露西亞獨りは、引くど
ころか、ますます多くし、且つ朝鮮にまで
手を出さうとするので、我國も之れを黙し
て居る譯にはゆかず、種々と交渉をしまし
たが、引きません。これがそもく、日露戰
爭の原因で、終に外交談判は破壊したので
あります。

委員出發、
 十一日、樺太軍
 ハ近藤岬ヲ占領
 ス、
 十二日、樺太南
 部占領確實、
 十四日、ウキツ
 テ講和委員ニ任
 ズ、
 廿五日、樺太首
 府歴山大堡ヲ占
 領ス、
 廿七日、樺太ル
 イコフ占領、
 廿八日、樺太ハ
 レオ占領、
 卅一日、樺太リ
 ヤブノフ中將降
 伏ス、
 八月
 二日、樺太軍司

明治三十七年二月八日の夜、我海軍は、東
 郷聯合艦隊司令長官の指揮の下に、旅順口
 を、瓜生艦隊は仁川に、敵艦を襲ひ露艦の
 數隻を撃沈しました。越えて、十日、宣戦
 の大詔は煥發あらせられたのであります。
 我海軍は、數々旅順を攻撃し、又は港口を
 閉塞ぎ。四月十三日、敵の旗艦を轟沈し、
 敵將マカロフ中將、爲めに戦没するに至り
 ました。
 陸軍は、六軍とし、第一軍司令官は黒木大

令官原口中將ハ
 樺太全島ニ軍政
 ヲ布ク、
 三日、畫家富岡
 永洗逝ク、
 五日、米國大統
 領紹介シテ日露
 兩國全權委員會
 合ス、
 七日、北遣艦隊
 沿海州上陸、
 十日、講和談判
 開始ス、
 廿九日、講和成
 ル、
 九月
 五日、講和成立
 ス、
 五日、東京市内
 大騷擾、警察署
 派出所ノ焼討、

將、第二軍司令官は奥大將、第三軍司令官
 は乃木大將、第四
 軍司令官は野津大
 將、第五軍司令官
 は川村大將、第六
 軍司令官は長谷川
 大將等に分れ先づ
 一方は韓國より敵
 兵を追拂ひ、四月
 の末、鴨綠江に戦ひ、九連城を占領し、尋



七日、京京市附近ニ戒嚴令ヲ布ク、
十一日、三笠艦火災ニ罹リテ沈没ス、
十四日、講和條約批准ノ詔勅、
十六日、平和克復ノ詔勅下ル、
同日、陸海軍人ニ勅語ヲ賜ハル十月
廿一日、聯合艦隊東京灣ニ凱旋ス、
廿三日、東京灣ニ於テ大觀艦式ヲ舉行セラレ
陛下行幸アラセラル、

廿四日、東郷大將以下入京、東京市ハ上野公園ニ於テ凱旋歡迎會ヲ開催ス、
十二月
二日、大使館設置發表、
同日、聯合艦隊園遊會、
三日、近衛師團長淺田中將凱旋
四日、木村近衛第一旅團長凱旋
五日、谷山近衛第二旅團長凱旋
七日、滿州軍總司令官大山大將同參謀長兒玉大將凱旋ス、
九日、第一軍司

で蛤蟆塘、普蘭店、鳳凰城、寬甸縣、安州、
金州など、盡く之れを取り、續て南山の大
激戦となり、南關嶺、柳樹屯、靉陽邊門、
熊岳城の占領となり。又得利寺の大激戦に
大捷を博し、敵は退却に退却をつゞけ、我
軍は連戦連捷をもつて之れを逐ひました。
此時に當つて、大山元帥は、滿洲軍總司令
官として戦地に向はれました。
八月十日、敵艦は大舉して旅順の港外に出
ました、これは敵艦の今を最後と思ひさだ

め、恰も平家の壇の浦出陣の覺悟で、成る
べく逃げのびて浦鹽艦隊に合するか、又は
中立港へ逃げ込まうといふ積りであります。
旗艦レトウキザンを始めとして、戦闘艦、
巡洋艦、驅逐艦を、合せて十八隻、南の方
へと走って來ました。我聯合艦隊は、旗艦
三笠に戦闘旗を掲げて、數十隻の艦隊、一
度に敵を取巻き、敵味方の砲彈雨の如く飛
び、黃海の波は逆捲きかへるほどでありま
した。此戦に、敵艦は何れも大損傷を受け、

令官黒木大將同
參謀長藤井少將
凱旋ス、
陸軍少佐久邇宮
殿下御凱旋、
十五日、竹敷要
港部司令官角田
海軍中將薨ズ、
十七日、東京市
民ハ滿州軍將卒
ヲ上野公園ニ招
キ凱旋歡迎會ヲ
開催ス、
同日、陸軍大行
列、
十九日、九月五
日ノ騷擾事件關
係者トシテ留致
セラレタル河野
廣中、大竹貫一、
小川平吉、櫻井

熊太郎、佃信夫
等ノ豫審終決ス
廿日、東郷大將
軍令部々長ニ任
ズ、
廿一日、韓國統
監府官制公布サ
ル、
侯爵伊藤博文韓
國統監ニ任ズ、
同日、東郷大將
海軍將卒ニ訓諭
ヲ發ス、
廿三日、西島第
二師團長凱旋、
廿四日、京濱電
車開通ス、
廿六日、軍艦筑
波、吳港ニテ進
水式、東宮殿下
臨御、

二二八
大概戰鬪力を失つて、五隻の戰艦と二隻の
巡洋艦は、漸くにして港内へ逃込みました。
八月十四日、浦鹽艦隊の三隻が、黒烟を吐
いて南進して來るを見受け、我が第二艦隊
司令長官上村中將は、四隻の軍艦を一文字
に並べて、いざや來れと待構へて居るとこ
ろへ、かくとも知らぬ敵の三隻は、旅順艦
隊を救はんと一心に馳せ來て我艦隊に出遇
ひ、我砲撃に敵し兼ねてや、リユーリツク
は其所に沈み、殘る二隻は大破して匆々北

二二九
の方へと逃げ行きました。
滿洲方面では、九月に遼陽を陷ぬれ、十月
に沙河の大會戰となり、常も我軍の大捷す
るところとなりました。旅順口は、攻むる
に難く、到底落ちぬものと、露西亞は、之
れを世界に二つとなき要塞であると誇て居
りましたが、如何なる堅固の壘でも、一た
び我が日本軍に逢へば、決して自慢は出來
ません、乃木大將の率ぬる壯烈勇武の將校
兵卒の包圍するところとなり、遂に三十八

廿七日、大島第三師團長凱旋、廿八日、戦後帝國議會開院式、英國公使館大使館トナル

○紀元二五六六年
明治三十九年
一月、小村全權
一日、海軍中將
同日、東郷正路斃ス、
同日、福地櫻癡
同日、岩村高俊
同日、公爵九條
同日、公爵九條
同日、日清協約

御批准成ル、
七日、西園寺内閣成ル、
八日、野崎陸軍中將薨ズ、
十二日、梨本宮殿下御凱旋、
同日、第二軍司令官奥大將凱旋在伯林帝國公使館ヲ大使館ニ改ム、
十四日、第三軍司令官乃木大將同參謀長一戸少將凱旋、
十七日、第四軍司令官野津大將同參謀長上原少將凱旋、
廿日、鴨綠江軍

年一月元旦を以て、敵將ステツセルは、城を開いて降参することを申込んだので、我軍は、之れを許して占領しました。二月の末より奉天附近の大會戦は始まりました、我軍は、黒溝臺、興京を取り、遂に全く奉天を占領し。勝に勝つたる我軍は、敵兵の逃ぐるを追ひて、鐵嶺、開城、昌圖、通化等の要の地を略しました。五月二十七八日には、前古未曾有の大海戦は、日本海に開かれました。敵のバルチツ

ク艦隊は威風堂々、三十餘隻、並んで來るところを、我が聯合艦隊司令長官東郷大將は、之れを對馬沖に待ち構へて、接戦し、敵艦を全滅し、敵の大將を生捕り、空前の大捷を以て、全世界を驚倒せしめました。



司令官川村大將
同參謀長内山少
將凱旋、
廿三日、韓國報
聘大使李載完殿
下入京、
廿三日、日清條
約交換済ム、
廿四日、松田秀
雄逝ク、
廿七日、飯田第
一師團長凱旋、
* * * * *
●日露講和
條約大要
露西亞帝國政府
ハ日本國ガ韓國
ニ於テ政事上軍
事上及經濟上ノ
卓絶ナル利益ヲ
有スルコトヲ承

我が北遣軍は、一氣に樺太に上陸して、ま
た、く間に全島を占領し。また、北遣艦隊
は、沿海州カムチャツカ沿岸に上陸し。北
韓軍は浦鹽斯德を、滿洲軍は哈爾賓を占領
すること、將に近づいた時、茲に北米合衆
國大統領ルーズヴェルト氏は、日露兩國へ
講和のことを提議されました。八月十日、
米國ポーツマスに於て我が全權委員小村壽
太郎以下、露國全權委員ウエツテ以下の間
に、講和談判は開始されました。其のち數

認シ日本帝國政
府ガ韓國ニ於テ
必要ト認ムル指
導保護監理ノ措
置ヲ執ルニ方リ
之ヲ阻礙シ又ハ
干渉セズ、
遼東半島租借權
地域以外ノ滿州
ヨリ全然且同時
ニ撤兵スルコト
露西亞政府ハ清
國ノ承諾ヲ以テ
大連並ニ附近ノ
租借權及一切ノ
權利ヲ日本政府
ニ移轉讓渡ス、
露西亞政府ハ長
春(寬城子)旅順
口間ノ鐵道及支
線一切ノ權利ト

回交渉の日を重ね、明治三十八年九月五日
和議全く成り。十月十四日、御批准を経て
之れを發表されました。其大要は、日本國
は韓國に於て總て卓絶なる利益を有し、又
韓國を指導、保護すること。兩國滿洲より
撤兵すること。露國は旅順および其附近の
租借權を日本に讓ること。露國は長春、旅
順間の鐵道を日本に讓ること。露國は樺太
の北緯五十度以南を日本に讓ること等であ
ります。

炭坑ヲ補償ヲ受
ルコトナク清國
政府ノ承諾ヲ以
テ日本政府ニ移
轉讓渡ス、
露西亞政府ハ樺
太南部及其附近
ノ一切ノ島嶼ヲ
永遠日本政府ニ
讓與ス、其地域
ノ北方境界ハ北
緯五十度ト定ム
兩國ハ宗谷海峽
及韃靼海峽ノ自
由航海ヲ妨礙ノ
ルヲ軍事上キ何
等ノ執ラザルコ
トヲ領沿岸ノ漁業
權ヲ日本國臣民
ニ許與ス、該條
文ハ十五條ヨリ
成リ別ニ追加條
款アリ

征露の役もおはり、我國も、だんくくと擴
くなり、國運は日に進み往き、上に万世一
系の皇室をいたゞき、國開けて二千五百
有餘年、金甌無缺の帝國に生れたる、われ
く國民たるものは、よろしく忠孝義烈の、
こゝろざしを養ひ、智能を啓き、徳行を磨
き、以て我が國家をして、世界万国に冠絶
せしむることを期せねばなりません。

歴史畫談 (をばり)

明治四十年二月一日第五版印刷

明治四十年二月十日第五版發行



發行者

東京市神田區美土代町三丁目二番地
富田能次

印刷者

東京市神田區表神保町十番地
今成溫平

發行元

東京市神田區
美土代町三丁目

文陽堂書店

7-2481

文淵堂書印



富田

富田

今

不

明治四十年二月廿五日

